

乳腺センターについて

乳腺センター長 杉本 斉



乳がんについて

乳がんは日本人女性の生涯あたり約11人に1人ほどの割合で発生すると言われています。

2015年の年間発症者数が93,000人で、胃がんや大腸がんを抜いて女性のがん罹患率の第1位を占めており、現在も毎年増加の一途をたどっています。

そして2017年には約14,200の方が乳がんによって亡くなりました。

従って、女性における乳がんの対策はかなり重要であると言えます。

埼玉県の乳がん検診に関しては2016年の統計によると全国で36.9%に対して埼玉県は35.1%とやや低い結果でした。

検診を積極的に受診しましょう。

乳がんのリスク

乳がんのリスクについてはまず生活習慣や環境因子によるものと家族歴などによるものとで分かれます。

生活習慣ではアルコールや喫煙、肥満でリスクがあがることが確認されておりま

す。しかし、最近言われている乳製品を多く摂取するとリスクが上がることや、大豆イソフラボンでリスクが下がるといったことは証明されていません。

また授乳経験があるとリスクが下がりますが、乳腺炎の既往や乳腺症や線維腺腫などの良性疾患でリスクが増えることはありません。

家族歴については第1度近親者(親、姉妹、子)に乳がんの方が1人いる場合はリスクが2倍、2人以上いる場合は3.6倍と

言われています。

乳がんの遺伝についてはHBOC(遺伝性乳癌卵巣癌症候群)がありますが、全乳がんの1%程度であり多くはありません。

乳がんの症状

乳がんを受診した患者さんの症状として一番多いのが乳房のしこりで、およそ8割を占めています。

次が検診や他の検査で偶然見つかった方が1割程度で、このような患者さんは自覚症状が無い人が多いです。その他、皮膚のひきつれや乳頭からの出血、腋の下のしこりから乳がんが見つかる患者さんもいらっしゃいます。

しこりががんであった場合、放置してしまうと、がんが皮膚から露出し、出血や悪臭を引き起こしたり、がんが転移して治すことができなくなってしまうこともあるため、しこり(特に閉経後の方)がある場合は早めに受診したほうがよいでしょう。

当院での乳がん診療

当院では2012年から乳腺外科を立ち上げて専門的な診療を開始しました。2019年からは、放射線科、病理診断科とともに、乳腺センターとして活動しています。乳がんの治療は手術、化学療法、放射線治療とありますが、常に最新の知見を取り入れて診療にあたっており、大病院と比べてもひけを取らないと考えています。

手術は温存手術や乳房全摘手術を行い、術後にリンパ浮腫になりにくいセンチネルリンパ節生検も行っております。また



マンモグラフィ

良性腫瘍も小さいものではあれば日帰りの手術を行っています。

乳房再建手術については今後できるように整備していく予定となっています。

化学療法については現在保険診療でできる乳がんの治療薬はすべて使用することができます。

外来化学療法室もあり、通院でも安心してなるべく負担が少なく治療が継続できるような施設も整っています。

また、放射線治療も週1回放射線治療専門の医師が診療を行っています。

当院でどうしても対応できないようなことについては東京医科歯科大学や都立

駒込病院と連携して対応しております。

診療体制と診療実績

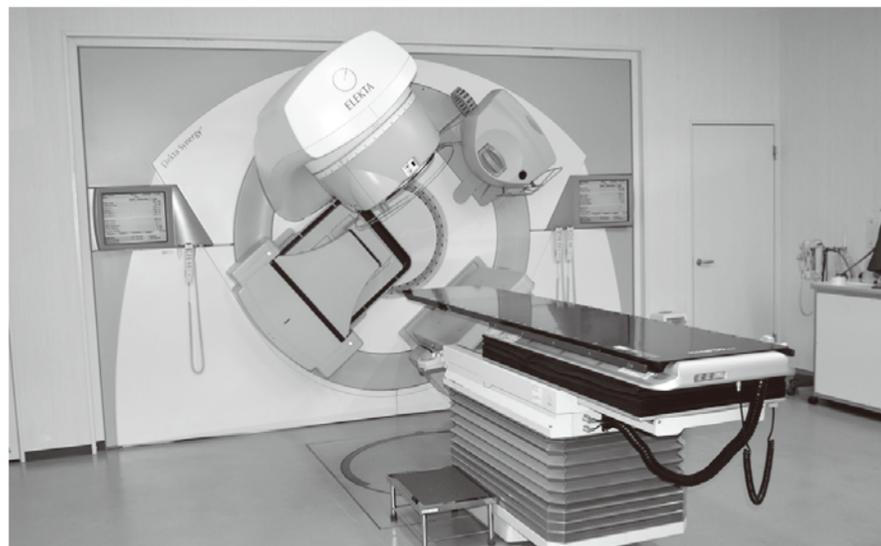
<診療体制>

現在当院では月曜日午前と金曜日午後に杉本が診療し、木曜日の午後は東京医科歯科大学の医師に手伝いに来ていただいています。

また、地域の病院とも連携を行っておりますので、まずお近くの乳腺外科を診療している病院に受診していただいても問題ありません。

<診療実績>

2019年の乳癌手術は54件でした。そのうち乳房温存手術が24件、乳房全摘手術が30件でした。当院の特徴としては全国平均と比べると高齢の患者さんが多く、ややステージが進行している患者さんが多い傾向にあります。乳がんは早期発見すれば予後の良いがんの一つです。しこりなどの自覚症状がある方は早めに医療機関に受診するようにしましょう。



放射線治療装置